

## 平成 28 年度（後期）海外渡航旅費助成金成果報告書

東京大学大学院理学系研究科

修士課程 2 年 菊地 淳仁

この度、日本地震学会より海外渡航旅費助成金をいただき、2016 年 12 月 11 日から 19 日までアメリカのサンフランシスコで開催された AGU FALL MEETING 2016 に参加してまいりましたので、その成果を報告いたします。

AGU は毎年開かれている学会で世界中の地球惑星科学の研究者が集まります。これまで日本地球惑星科学連合大会や海外での小規模な研究集会に参加したことはあったものの、AGU のスケールの大きさには大変驚きました。

私は大会三日目の Slow Slip に関するポスターセッションにおいて “Tidal modulation of slow slip events in the Nankai trough subduction zone detected by strainmeter” というタイトルで発表を行いました。産業総合技術研究所が設置している歪計の高精度観測データを利用することでスロースリップの潮汐応答を示す、という内容です。解析手法に今までの研究では用いられてこなかった工夫をしており、その部分を強調して説明しようと意気込んでいたのですが、いざ聴衆がくると英語で自分の考えを伝えることに苦戦し大変悔しい思いをしました。それでも、私の辿々しい英語を熱心に聞いてくださって「Your study is interesting.」などと嬉しいコメントをもらえることもあり、今後の研究に向けてモチベーションを得ることができました。また、様々な国籍・年齢層の方が私のポスターに来てくださり、自分が研究しているような内容に興味を持っている人が世界中いるのだと思うと一層のやる気が湧いてきました。

他者の発表も大変興味深いものが多かったです。例えばゆっくり地震を対象にした研究の中には、アラスカでのイベントを観測するために孤島までヘリコプターで飛行し新たな地震計を設置する研究や、一風変わったアプローチとしてサンゴ環礁から当時の海水面を見積もり地殻変動への示唆を与える研究などがあり、様々な面からの取り組みに好奇心をそそられました。また、企業の展示もありました。NASA のブースでは VR を用いて月の表面地形を高精度で間近に見ることができ、科学と IT の融合といったような近年の世界の流れに沿った最先端技術を体験することができました。

最後に、日本地震学会の海外渡航旅費助成金をいただいて AGU に参加し、自らの発表や英語でのコミュニケーション、最新の研究・技術との接触等、多くの貴重な体験をすることができました。支援して下さった日本地震学会と関係者の皆様に心より感謝申し上げます。